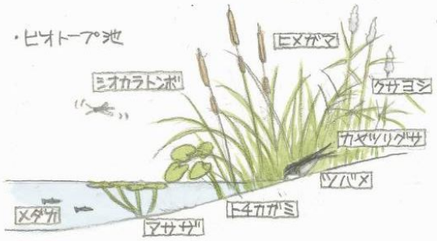
初夏 5.6月

◦雨の日に子がえる旅立つころ ── 庭地の小さな水たまり

小さな水たまりでも、いきものたちにとってはかけがいのない場所になります。
プラスチックの池からは、小さなカエルたちが生まれていきます。
ベランダに置かれた水槽からは、羽化したイトトンボが舞い立ちます。
秋、街に飛来する赤とんぼのふるさとは、〈学校のプール〉ともいわれています。



◦梅雨前の蒸し暑い夜に、空の高いところからテッペンカケタカ・テッペンカケタカというさえずりが聞こえてくることがあります。声の主は、渡って行くホトトギス。眼下の灯りにも臆せず、声が移り、去って行きます。

・こんな出会いも…
2008年5月27日午後10時過ぎに、移動しながらさえずる声を聞きました（平町1丁目・自然通信員）

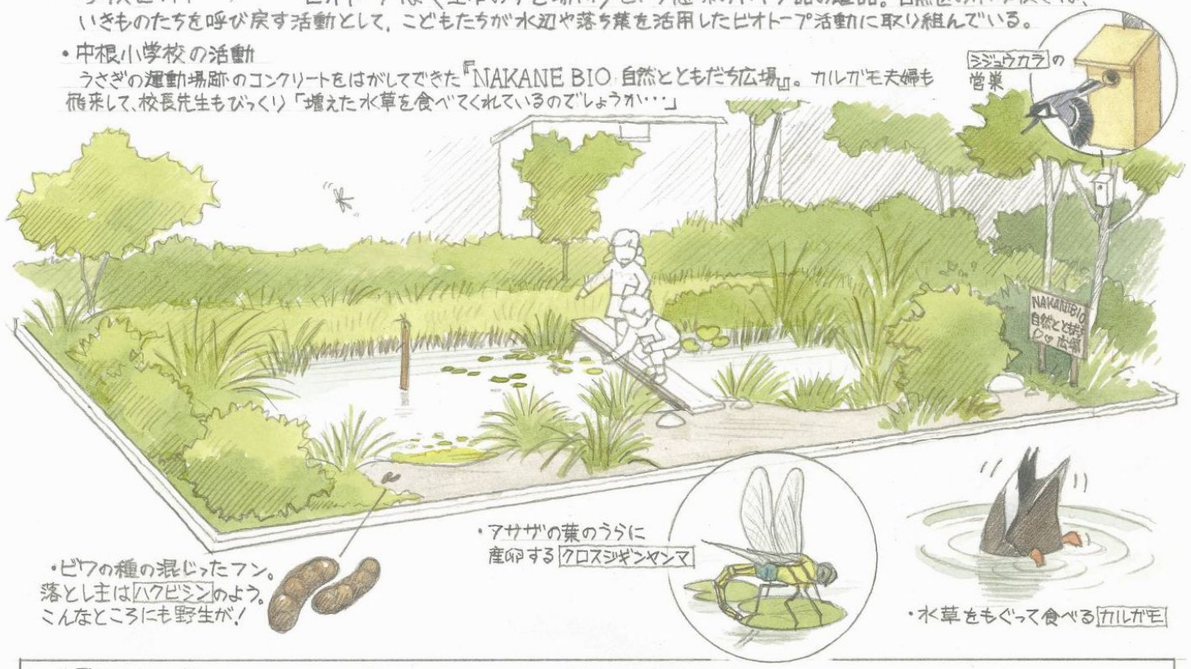
ホトトギス
カッコウ目 カッコウ科
夏鳥として日本各地の山地に飛来。冬は南国に渡る。さえずりは「特許許可局」と聞きなされる。

◦モノサシトンボのサンクチュアリ　こんな出会いも。

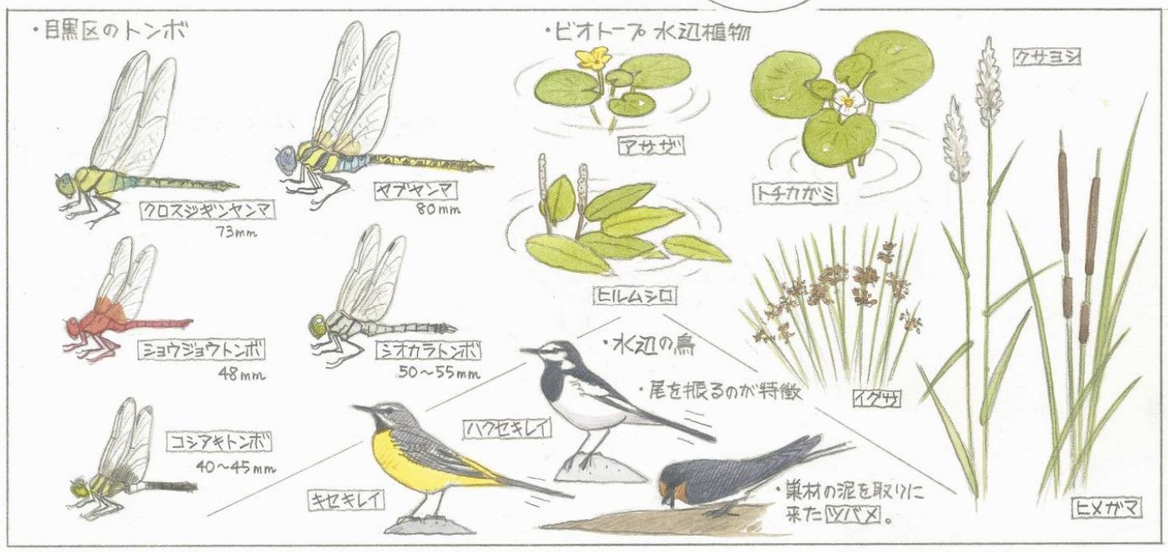
できるだけ手を入れずにしている庭は、〈自然の小宇宙〉。
プランターに水を張った池からは素敵なモノサシトンボが生まれます。（上目黒4丁目・自然通信員）

◦学校ビオトープ　ビオトープは〈生命のすむ場所〉という意味のドイツ語の造語。目黒区の小学校では、いきものたちを呼び戻す活動として、こどもたちが水辺や落ち葉を活用したビオトープ活動に取り組んでいる。

・中根小学校の活動
うさぎの運動場跡のコンクリートをはがしてできた『NAKANE BIO 自然とともだち広場』。カルガモ夫婦も飛来して、校長先生もびっくり「増えた水草を食べてくれているのでしょうか…」



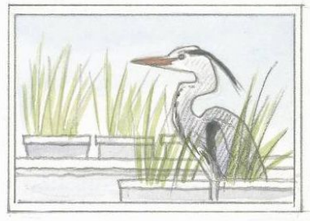
・水草をもぐって食べるカルガモ



◦カルガモの親子　水辺の人気者カルガモ親子。目黒川などで毎年観察されている。

・五本木小学校の活動　校庭の脇の〈五本木の森〉のあたりには、かつて湧き水のある池があったそう。そんな環境の回復を目指して、井戸の水を引いた〈五本木の池〉ができた。

◦こんな出会いも



・屋上にできたビオトープ。大きなアオサギが舞い降りたところを写真におさめました。（原町小学校）

アオサギ
コウノトリ目サギ科

・駒場の空川では昭和26年頃まで蛍が見られた。「夜空の明るい都会では、自然発生は難しいのですが、活動は未来の夢につなげています」と、蛍の住める水辺環境を呼び戻そうと駒場野公園で〈駒場野ホタルの会〉が活動中。

イラスト：水谷高英　©目黒区